南部中三年生が生み出す三ケ根駅の未来とは！

三ケ根駅未来会議

開催日：令和元年 11 月 5・14 日
発行元：幸田町役場 企業立地課

現在の三ケ根駅はバリアフリー化されておらず、無人駅である。4～5年後を目処にエレベーター設置及び、駅の改修が予定されている。

エレベーター設置のためだけにただ駅を改修するのではなく、駅周辺が住民を主体としたまちづくり拠点となることを目指している。

駅周辺のまちづくりについて幸田町民や駅の利用者などから意見を集めるべく、町民参加型の集会「三ケ根駅未来会議」を設けており、今回幸田町立南部中学校へ出張未来会議を行った。

事前授業で駅の事例紹介

南部中学校に協力をいただき、授業の一貫として三ケ根駅について、中学生の視点で考えてもらう機会を作っていただいた。

中学生向けとして二週に分けて授業時間をいただき、まず十一月五日に事前授業を行った。三ケ根駅の現状（乗降人数や現状写真など）を知ってもらった後、世界の様々な駅の事例を紹介。その日は生徒達へ宿題を出して終了した。

宿題の内容は、普段当たり前に過ごしている幸田町や三ケ根駅について今一度考えてもらう設問と、中学生だからこそ街や駅に出来ることは何かを問うもの。これらを次の授業までにまとめてきてもらうことをお願いした。宿題を通して中学生ならではの意見を集め、エレベーターが設置される頃には成人を迎える中学生に街について考えてもらう機会となればと思いを込めた。

グループ案発表及び講評

３年１組

３年２組

南中生の視点、三ケ根駅には【居場所】が足りない!?

事前授業の翌週、十一月十四日にグループワーク形式の授業をI-クラス2時限ずつ使って行った。

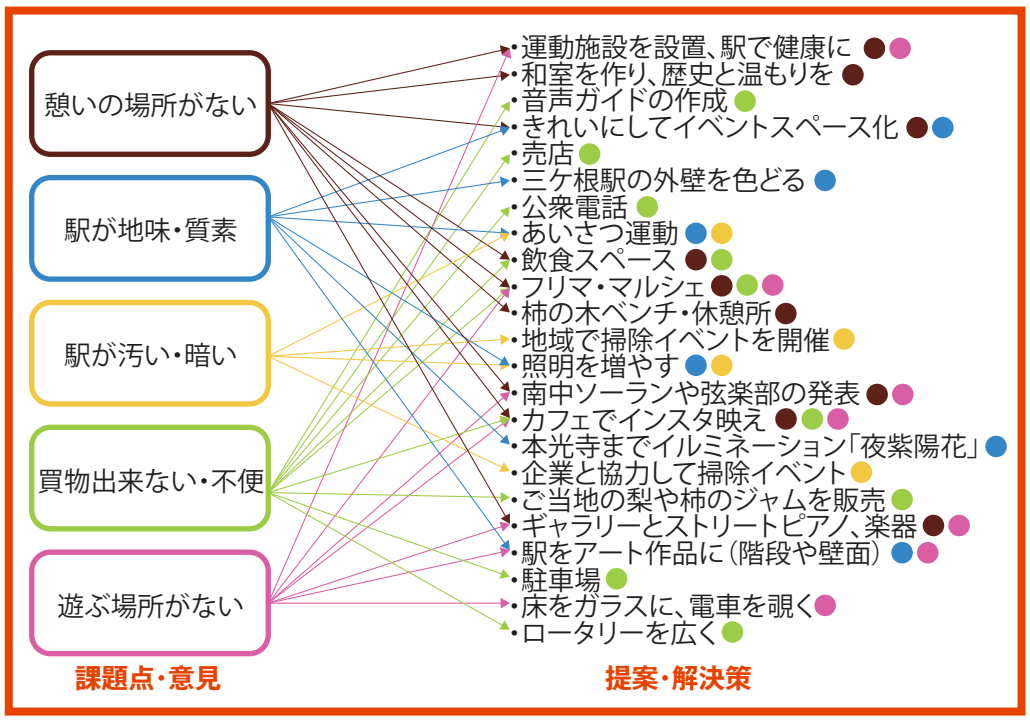
まず、生徒たちに1グループ5～6人で組んでもらい、宿題ワークシートをグループ内で共有することから始めた。出てきた課題点・意見から、最終的なグループとしての提案・解決策を模造紙にまとめてグループ毎に発表してもらった。生徒達がまとめた三ケ根駅への提案は下記に掲載する。

提案をまとめる際に、「中学生としてどう関わることが出来るか」という点を意識してもらうようにした。その結果中学生が地域と一緒に出来そうなことを多数考えてもらうことができた。

下記提案を見渡すとわかる通り、三ケ根駅自体を『汚く暗い』と感じている生徒が多くおり、掃除イベントの提案が複数見られた。地域の企業とタイアップをして掃除イベントを開催したり、駅の外壁を塗装して綺麗に明るくするといったハード面だけでなく、あいさつ運動やマルシェなどのイベントを通して、駅にいる人自体を明るくしていきたいといったソフト面での提案もあった。また、「駅にピアノや楽器を置いてほしい」「誰でも使える運動施設がほしい」などの駅に居場所をほしがる意見も多かった。部活動などで携帯電話を常時利用出来ない中学生ならではの「公衆電話がほしい」や「FreeWi-Fiがほしい」といったものもあった。

出された意見・課題点と提案・解決策を並べ、それぞれ関係の深い提案を線で結んだものを左に掲載する。そこからわかることは、南部中学生の視点でみる三ケ根駅には「憩いの場所がない●」と「買い物が出来ない・不便●」項目に関連が深い提案が9つと一番多く、次に「遊ぶ場所がない●」項目に関連する提案が多いことがわかった。三ケ根駅に対して中学生は、友人と放課後に話をしたり、部活動後の送り迎えを待ったりするような【居場所】を求めていることが、提案内容からわかるのではないだろうか。

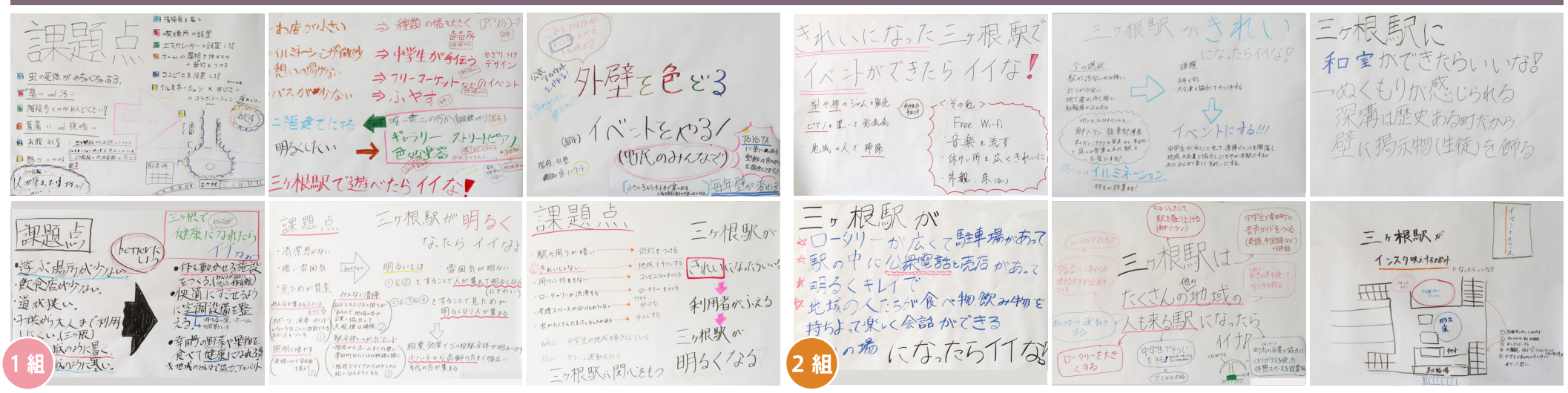
出された意見は今後の三ケ根駅周辺まちづくりへの大切な資料としてまとめていく。これからも意見は随時募集していくので、今回伝えきれなかった部分や思いついたことなど、遠慮なく発信してほしい。



⬆南部中生が考える、三ケ根駅の課題点と提案
課題点との関連で分類

町民向け未来会議も開催中!!
FACEBOOK未来会議ページへ
いいね！もお願いします

南部中学校3年生のアイディア みなさんありがとうございました！



三ヶ根駅未来会議【第３回】12 月 18 日（水）昼の部 13:00～、夜の部 19:00～（内容は同一）里中央コミュニティーホームにて

DIRECTION, DESIGN AND PRODUCED BY YASUYUKI KAWANISHI + ICHIBANSEN / NEXTSTATIONS, KOTA TOWN , AICHI JAPAN JULY 2019　発行元：幸田町役場 企業立地課 三ヶ根まちづくりグループ 0564-62-1111 内線 341